SEINAN CHANTEURS

'95 ANNUAL CONCERT

＋

徳永麟之助 米寿祝賀記念

平成７年度福岡市民芸術祭参加

西南シャントゥール'95定期演奏会

[徳永麟之助米寿祝賀記念]

賛助出演／女声合唱団けやき

1995年11月4日(土)　メルパルクホール福岡

主催／西南シャントゥール　後援／福岡市民芸術祭実行委員会

'95.9.2 長崎市民会館前

麟ちゃん米寿お目出とう

学校法人西南学院
院長、学長／田中輝雄

西南学院大学同窓会
会長／中牟田栄蔵

学校法人福岡女学院
院長／徳永　徹

財団法人九州交響楽団
理事長／田中健蔵

西日本オペラ協会
会長／三浦國彦

福岡市民オーケストラ
団長／田中　透

福岡青年音楽家協会
代表／大谷華代子

福岡県合唱連盟
理事長／香月ハルカ

福岡古楽協会
代表／小池宏明

福岡ＯＢフィルハーモニー・オーケストラ
会長／国米　稔

ゆうやけ合唱団
代表／平岡憲雄

福岡室内合唱団
代表／楠田治雄

福岡フロイデコール
代表／寺田正市

ＲＫＢ女声合唱団
代表／香月ハルカ

エコー西高宮女声合唱団
代表／渡辺輝子

コール・リラ女声合唱団
代表／渡辺時江

女声合唱団けやき
代表／松本博子

ライラック合唱団
代表／松本省一

フラウエンコール南
代表／安松奈津子

福岡バッハコレギューム
代表／武田又彦

女声合唱団コール・エスポワール
代表／林田美佐子

コーロ・ピエノ
代表／田中雅美

福岡合唱協会
総務／中村稔

福岡コール・フェライン
代表／山本昭輔

西南学院グリークラブ一同
代表／楠田治雄

西南シャントゥール一同

（敬称略、順不同）

西南シャントゥール会長
徳永麟之助

学校法人福岡女学院理事長
学校法人西南学院理事
社会福祉法人野の花学園理事
学校法人ルーテル神学大学評議員
福岡市音楽団体連絡会会長
アクロス運営委員
学校法人福岡ＹＭＣＡ国際専門学校理事
ＦＭ福岡相談役
福岡文化連盟監事
福岡コールフェライン会長
福岡合唱協会顧問
西南学院グリークラブ顧問

P R O G R A M

Ⅰ. 男声合唱組曲「東京景物詩」

作詩／北原 白秋
作曲／多田 武彦
指揮／内海 敬三

あらせいとう
カステラ
八月のあひびき
初秋の夜
冬の夜の物語
夜ふる雪

Ⅱ. Songs of The New World

指揮／馬頭 軽明
伴奏／中野 茂樹
羽立 朋子

Red River Valley.
編曲／*J.Wood*

Water Boy
Negro Work Song

Poor Wayfaring Stranger.
編曲／*G.P.Jackson & E.j.Gatwood*

Sweet Lorena.
編曲／*Shuhzo Asai from N.Luboff*

I've Been Wulkin' On De Railroad.
編曲／*G.Ohara*

Ⅲ. Songs From Broadway Musicals

指揮／内海 敬三
伴奏／瀬川 啓子

賛助出演
女声合唱団けやき

Hello, Dolly! ~"Hello, Dolly!"
作詩・作曲／*J.Herman* 編曲／*C.Warnick*

Summertime ~"Porgy and Bess"
作詩／*D.Heyward* 作曲／*G.Gershwin* 編曲／*W.Stickles*

Memory ~"Cats"
作曲／*A.L.Webber* 編曲／*D.Cullen*

America ~"West Side Story"
作詩／*S.Sondheim* 作曲／*L.Bernstein* 編曲／*W.Stickles*

Climb Ev'ry Mountain ~"The Sound Of Music"
作詩／*O.HammersteinII* 作曲／*R.Rodgers* 編曲／*C.Smith*

Ⅳ. 男声合唱組曲「海鳥の詩」

作詩／更科 源蔵
作曲／広瀬 量平
指揮／内海 敬三
伴奏／瀬川 啓子

オロロン鳥
エトピリカ
海　鵜
北の海鳥

ウェールズの吟遊詩人に思う

この夏ウェールズの最大の都市カーディフで男声合唱団の練習を聴く機会があった。ラクビーのクラブハウスが練習場所であったが、既に10人程のメンバーが来ていて、ビールを飲みながら歓談していた。
指揮者は時間になると、飲みさしのジョッキを横において指揮をはじめたのには驚いた。平均年令は60才を越えるとのことだが、さすが男の世界、酒と音楽を楽しみながらの練習だった。
アインステッドヴォッドというウェールズ芸術祭があり、その男声合唱団のコンテストを丸一日聴いたが、中には、杖をついた銀髪の老人もいて、最前列で胸を張って堂々と歌っている姿は感動的で、さすが吟遊詩人の末裔、心から歌を愛する人たちであった。
我らが会長徳永さんも、今宵、先輩としてステージに立たれる。我々の喜びであると同時に大きな励みでもある。
今回の「東京景物詩」は東大コールアカデミーＯＢの委嘱作品で、多田氏のご好意で歌うことになった。多田氏の作品は初めての曲でも、懐かしさと親しみを持って聞く事が出来る。
特にこの組曲最後の「夜降る雪」は、５拍子という変速的なリズムながら、旋律が繰り返し出てくる旋律は心に残る曲となるでしょう。
「海鳥の歌」はもともと混声合唱で、芸術祭合唱部門の最優秀賞を獲得した評判の曲である。作詩の更科源蔵によれば「戦中、戦後の暗い日本の運命的な時代を生きた私自らの姿を、荒野の風土の中で生きる北の海鳥の姿に託してうたったもの……」という。ダイナミックでスケールの大きい曲は、当然のことながら男声合唱としても広く歌われるようになった。編曲は作曲家広瀬量平氏自身によるものである。我々もあのウエールズの男達に思いを馳せながら、精一杯歌います。

西南シャントゥール常任指揮者
内海 敬三

'52年西南学院グリークラブの学生指揮者。'54年同大学を卒業と同時に、西南シャントゥールを結成、初代指揮者となる。その後、ＲＫＢ男声合唱団、福岡合唱協会等の指揮者を歴任。現在西南学院高等学校教諭、西南シャントゥール常任指揮者。

Ⅰ.東京景物詩

作詩／北原 白秋

1. あらせいとう

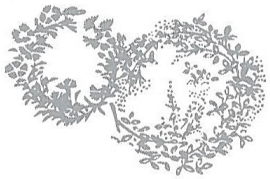
人知れず袖に涙のかかるとき、
かかるとき、
つひぞ見馴れぬよその子が
あらせいとうのたねを取る。
ちやうど誰かの為るやうに
ひとり泣いてはたねをとる。
あかあかと空の夕日の消ゆるとき、
植物園に消ゆるとき。

2. カステラ

カステラの縁の渋さよな。
褐色の渋さよな。
粉のこぼれが手について、
手についてね、
ほろほろとほろほろと、
たよりない眼が泣かるる。
ほんに、何とせう、
赤い夕日に、うしろ向いて
ひとり植ゑた石竹。

3. 八月のあひびき

八月の傾斜面に、
美しき金の光はすすり泣けり。
こほろぎもすすり泣けり。
雑草の緑もともにすすり泣けり。
わがこころの傾斜面に、
滑りつつ君のうれひはすすり泣けり。
よろこびもすすり泣けり。
愚縁のふかき恐怖もすすり泣けり。
八月の傾斜面に、
美しき金の光はすすり泣けり。



4. 初秋の夜

月は十六夜、
ほんの欠け初め、
稲妻だ、幽かな。
濡れて光るわづかな星、
綿雲のうす紫。
稲妻だ、幽かな。
絶えずまたとどろく海、
嵐の名残。
稲妻だ、幽かな。
月はいよいよ澄み、
揺れそよぐ斜丘の小竹、
稲妻だ、幽かな。
ああ、そして一面の虫の音、
初秋の露。
稲妻だ、幽かな。

5. 冬の夜の物語

女はやはらかにうちうなづき、
男の物語のかたはしをだに
聴き逃さじとする
外面にはふる雪のなにごともなく、
水仙のパッチリとして匂へるに
薄荷酒青く揺げり。
男は世にもまめやかに、心やさしくて、
かなしき女の身の上に
なにくれとなき温情を
寄するに似たり。
すべて、みな、
ひとときのいつはりとは知れど、
互みになつかしくよりそいて、
ふる雪の幽かなるけはひにも涙ぐむ。
女はやはらかにうちうなづき、
湯沸のおもひを傾けて
熱き熱き珈琲を掻き立つれば、
男はまた手をのべてそを受けんとす。
あたたかき暖炉はしばし息をひそめ、
ふる雪のつかれはほのかにも
雨をさそひぬ。
遠き遠き稲妻と夜の月光。

6. 夜ふる雪

蛇目の傘にふる雪は
むらさき薄くふりしきる。
空を仰げば松の葉に
忍びがへしにふりしきる。
酒に酔うたる足もとの
薄い光にふりしきる。
拍子木をうつはね幕の
遠いこころにふりしきる。
思ひなしかは知らねども
見えぬあなたもふりしきる。
河岸の夜ふけにふる雪は
蛇目の傘にふりしきる。
水の面に、その陰影に
むらさき薄くふりしきる。
酒に酔うたる足もとの
弱い涙にふりしきる。
声もせぬ夜のくらやみを
ひとり通ればふりしきる。
思ひなしかは知らねども
こころ細かにふりしきる。
蛇目の傘にふる雪は
むらさき薄くふりしきる。

馬頭 経明 ■指揮
'59年、西南学院大学商学部卒業。グリークラブ学生指揮者。現在、ヤマハ株式会社九州支店勤務。

中野 茂樹 ■伴奏
高校時代、先輩甲斐祥弘(甲斐バンド)とライブ喫茶「照和」にレギュラー出演。現在ライブ、レコーディング、ＣＭなど音楽活動、ブルーノートに来日のテリーマクミランとセッション。

羽立 朋子 ■伴奏
武蔵野音楽大学器楽科卒業。現在フリーでオーケストラの客員、室内楽など幅広く活動している。福岡青年音楽家協会会員。

II. Songs of The New World

西部開拓時代、アメリカは新世界を完成させるべく、国をあげて広大な辺境の地に挑み、そこでの生活から、真のアメリカ文化の基礎を築いたとも言える。
アメリカの開拓には、イギリスをはじめ多くの国からの移民が参加した。その故かアメリカ民謡にはさまざまな国に起源を持つ歌が多い。
開拓の出発点となったアパラチア山岳地帯のいわゆるマウンテンソング、そしてその主役だったカウボーイ達の歌、また海の男達を歌ったSeaChantey等には開拓者達のたくましく、素朴で詩情あふれる心が歌われており、現在でも私たちを楽しませ人間の精神の尊さを示しつづけている。

1. Red River Valley
ケンタッキー山岳地帯のCow Boy Song。赤い河とは砂漠を流れる河の水が土色をしていることに由来する。哀愁をもつメロディーは恋人への想いをしみじみと歌う。
"この谷から、貴女は出て行こうとしている"と皆が言う。あなたの明るい瞳とかわいい笑みを失うのはなんとも寂しいことだ。

2. Water Boy
黒人の労働歌。アフリカからつれてこられた黒人の歌の中には、ずいぶん悲愴なものがある。これはその代表格。「ウォーターボーイ」とは南部の灼熱の太陽のもとで、強制労働に従事している黒人達の渇きを癒す為に水を飲ませて歩く少年のこと。その光景をさまざまと表現している。
「ウォーターボーイ！どこに隠れている、出てこないと仕事を言い付けるぞ。この山の中で、おれのハンマーほど金の様に輝くものはない……」

3. Poor Wayfaring Stranger
南北戦争の頃から全土に広がり始めた歌で全体が悲しさに包まれている。苦しく悲しい人の世の生活を、あてもなく放浪しつづける旅人にたとえ、神を信ずる事によってのみ救われると歌う。

4. Sweet Lorena
映画「捜索者」のテーマにも用いられた曲で、ロレーナと言う女性に想いをよせた歌。
「やさしいロレーナの夢を見る、"さようなら"と言わなければよかった、今度ロレーナに会ったら、彼女を愛する私の気持ちは一段と燃え上がるだろう」

5. I've Been Wulkin' On De Railroad
アメリカのカレッジソングにもなっている民謡。西部開拓時代、鉄道工事に従事した人々の心意気を明るく歌った歌。映画「ジャイアンツ」のテーマにも使われた。勿論日本でもよく知られている。

III. Songs From Broadway Musicals

― 賛助出演／女声合唱団"けやき"―

Soprano	Mezzo Soprano	Alto
飯田　知子	岩永　清子	上野　慶子
小野　明子	牛島　和恵	大山　アヤ
河野　照恵	緒方　弓子	尾﨑　節子
斉藤　明美	河野　真幸	古賀　康代
玉城喜美子	来嶋　知子	仲嶋　和枝
富岡　洋子	高田　郁代	林美　恵子
廣田　陽子	竹中　典子	藤野　郁子
松本　博子	都竹えり子	松永勢津子
宮崎　憲子	東内　節子	森本千恵子
山本　京子	中尾　淳子	森永　昌代
		吉海　元子

瀬川 啓子 ■ピアノ
福岡教育大学音楽科卒業。ピアノを江頭恵美子、福田伸光の各氏に師事。独唱・合唱の伴奏者として活躍している。現在、西南学院大学文学部児童教育学科助教授。

Ⅳ．海鳥の詩

作詩／更科 源蔵

1．オロロン鳥

オロロン
オロロンとなけば
岩も
もの言わぬ岩も
オロロンと答える

切岸の
岩棚の
歯の上に
生命(いのち)あたため
海を見る
ウミガラス
ウミガラス

ふるさとは
岩の上
雨ふれば
雨にぬれ
陽が照れば
陽にやかれ
風がふけば
骨かれる

水平の
落日に
胸は燃え
海昏(く)れれば
胸しづみ

光をもとめ
南をしたい
たどりつく
ウミガラス
オロロンとなけば
海も
海も岩もオロロンと答える

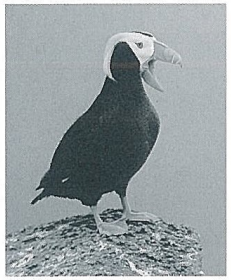
オロロン鳥（うみがらす）▶
鳴き声がオロロンと聞こえる。北海道北部の小島の岩棚に巣をつくる。

2．エトピリカ

濃い霧にめいし
黒々と
波のどよめく
オホーツク
風走る岩棚の
草原(そうげん)に首を振り
海を見風をきく
エトピリカ

氷の臭いにしびれ
ぎこちなく
カタカタと翼ふるわせ
火を抱(だ)いて
ゴーゴーと鳴る
荒潮に生命(いのち)さぐる
エトピリカ

岩崖(いわかげ)の土穴の
幼い生命(いのち)に
そうそうと
冠毛をなびかせ
目を見張り
霧にもめげずに飛ぶ限り
神はいる



◀エトピリカ（おいらんどり）
アイヌ語で"くちばしが美しい"の意。海に面した断崖の草地に穴を掘って繁殖する。

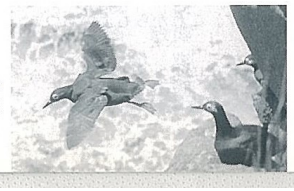
3．海　鵜

首をのばし
風をきき
首をちぢめ
潮をきく
蒼く寒く
うねりうねる
親潮の
キラキラと
くずれただよう
銀のいろこ

荒磯は
洗いくだけ
底しれず
行方も知れぬ
黒潮の
渦の濃霧は
鉛をのみ
ドロロンとなる

鵜は啼かない
首をのばして
寒流をさぐり
首をちぢめて
暖流をきく

▲ウミウ（しまどり）
海岸近くの岩礁に棲む鵜。冬は全国の外海の海岸で見られる。



ケイマフリ（あかあし）▶
アイヌ語でケマ（脚）とフレ（赤い）からの名前。海岸の崖岩の隙間に巣をつくる。

4．北の海鳥

ふるさとは
キラキラの
光散る
北の海
北の空
オロロン
エトピリカ
ケイマフリ
生と死は
ろんろんと
ゆれ動き
ゆれ返す
深き海底

ごうごうと
重く渦ず巻き
天にとどろく
オーロラの
たゆとう季節
空を行く
笛の音ににて
月の夜は
月にぬれ
胸いたみ
ロごもり
息をのむ

みずかきの
冷たくしびれ
落日の
燃えゆく彼方に
あかね色
花を夢みて
鉛色
波をけり
岩をけり
風を呼び
どうどうの
シタキに乗り
虹をくぐり

雪を抱(いだ)く
雲となり
風にまかせ
天と地の
空と海との
人と神
一つにとける
キラキラの
光の彼方
南天の
星をめざすか
北の海鳥(うみとり)

（註）シタキ＝雪や雨をともなう突風

福岡フラウエンコール総務
貝島 宏子

西南シャントゥールと私

約４年前に福岡に引越して来たので私は、まだ関西弁しか話せない福岡県人です。
合唱の好きな私は、この地でも仲間がほしくて、誘われるまますぐに「福岡フラウエンコール」に入れて頂きました。アルトの片隅でおとなしく歌って居ましたが、合唱団の役員交代の時期になり、順番制で総務を担当することになりました。最初の役目が、私達の定演に初めて「西南シャントゥール」の賛助出演をお願いすると言う大役でした。
地縁も人縁もない私でしたが、福岡の生き辞引きのような副総務やベテランの団員の方と一緒に、本当にオソルオソル佐藤マネージャーと約束をとってお目にかかりました。最初はしおらしく、次第に厚かましくなっていくオバタリアンの話を聞いた後、佐藤さんが快く(？)出演を引き受けて下さった時には心底嬉しさで一杯になりました。これがおつき合いのはじまりです。
実は、昨年11月14日サンパレスで、私ははじめて「西南シャントゥール」の演奏を聞いたのです。やわらかいハーモニー、声量の豊かさ、音楽の厚さ、選曲の多様さ等々、これが伝統のある合唱団の姿だとつくづく感心いたしました。そして演奏会の中で私が一番感動した曲、40周年記念委嘱作品の美しい日本語の組曲「思ひ出」を、今年の春、私達の定演のステージに乗せて頂くことが実現したのでした。お陰様で私達の定演に予想以上の貴重な付加価値をつけて下さったことに感謝して居ります。
今振り返ってみますと、あの時思い切って勇気を出して「西南シャントゥール」にわがままなお願いをしてよかったと思って居ります。私達の合唱団は大きな経験を積んで色々勉強させて頂きました。私自身は「思ひ出」を２回聞いて満足して居ります。これからもよいおつき合いが出来ればと願って居ります。
メンバーの方々の暖かい心がそのまま表れているような歌声が、今夜も会場一杯にひびきますように！御盛会を御祈りして居ります。

西南シャントゥール出演者

1st Tenor	Baritone
徳永麟之助	林　照樹
内海　洋一	内海　敬三
秋根　武	和田　正義
乙藤　成美	石川　和義
宮地　基嗣	古賀　正義
高木　正志	森　博彦
出口　幸一	松尾　淳郎
中尾　武史	高川　弘幸
本山　和文	首藤　純
山元　一憲	宮越　健雄
山口　聡	村田　和久
中竹　茂美	（学生ＯＢ担当）
2nd Tenor	**Bass**
的野　恭一	山本　昭輔
徳永　弘道	下川　勝史
野辺　和馬	豊田佳日子
馬頭　経明	木道　昇
波多江　忠	田中　義信
徳永　和彦	武立　真一
佐藤　宗一	井形　宣英
黒江　量二	鶴　喜廣
石松　茂	平田大三郎
窪田　敏博	松枝　保匡
波左間　実	夏秋　毅昭
亀川　正則	

プログラムデザイン／㈱アルコス

Hail Seinan

作曲／多田 武彦

Hail,Seinan

Alma O'Norean Graves

Seinan, our bastion of faith,
Vivid dream of a bygone year,
Crown'd with honor, love and truth,
Be true to Christ' is our prayer.

Hail to our Alma Mater!
Lighthouse by the sea, radiant,
Gleams for her sons and daughters
With God's love, resplendent.

Ah, Seinan, school of wisdom,
Whose fair halls ring with laughter,
Glow with knowledge and freedom,
Symbols of Divine favor!

Behold! her banners fly high
O'er students of purpose true
United to live or to die
Her emblems e'er to keep pure.

Ah,SeinanとHail,Seinan

豊田佳日子（'53期）

僕が４年生の時「西南グリーにもカレッジ・ソングを」の声が上り、部長だったグレーヴス先生に作詞をお願いに行った。Ah,Seinanが手渡されたのは'52年の７月だった。指揮者の進藤君が石丸寛氏に作曲を依頼した。翌年の１月に出来てきて、進藤君がガリを切った。次の指揮者の内海君が練習をつけ'53年度から歌われるようになったが、僕は学生としてはこの歌を一度も歌うことなく卒業した。
'54年に内海君と乙藤君が卒業してきて、一緒にシャントゥールを作った。「シャントゥールにもテーマ・ソングを」ということになり、発足時のサブ・マネだった僕はまたグレーヴス先生にお願いに行った。先生は快くHail,Seinanを作って下さった。
「作曲は誰に？」となり、当然のように石丸寛氏の名前があがったが、僕達にはお金がなかった。「君の友人の福永（陽一郎）さんに頼んで」と言われ、当時藤原オペラにいた福永さんに頼むと彼は無償で引受けてくれた。ただし単語の音節切りをしてくれとのことだった。ＯＫはしたものの単語すべてに当らねばならず、結構しんどいものだった。就職したての下っ端の忙しさにかまけて僕の作業は遅々として進まなかった。そのうちシャントゥールは活気を失い、テーマ・ソングへの要望もいつしか消えていった。メンバーの中にはHail,Seinanというシャントゥールのために作られた詩の存在すら知らない人が増えて行った。
数年前西南シャントゥールが再び活気をとり戻してきた頃、内海君が「僕らのテーマ・ソングがありましたよね。」と言った。僕は早速Hail,Seinanをコピーして彼に渡し、当時の話をした。しかしあの時作曲を快諾してくれた福永さんは既に亡き人となっていた。
　この度この詩がマネージャーの佐藤君の尽力と多田武彦氏のご好意により日の目をみることになった。僕は40年来の肩の荷を降ろし、悔恨と自責の念と喜びと感謝の気持ちをない交ぜにしてHail,Seinanを歌います。

喜びと悲しみと

「もう歳だから…」体よく逃げる世間の言訳がシャントゥールでは通用しない。還暦の人でさえも徳永会長に比べるとまるで子供だからだ。「アルツハイマーがもう始まっているのだよ」と人の物忘れをからかったりする自分の肉体の衰えを、ふと自覚する時は淋しいものだ。そんな我々だが心は皆若い。歌うことがそうさせるのか、学生時代の先輩後輩の中にいるからなのか、そのどちらも良いのだろう。だが米寿の大先輩がかくしゃくとして練習にステージに立つ姿が刺激になっていることは否定できない。これまでもそうだったが、これからも大きな柱でいて頂きたいものだ。
肉体の衰えは自然の摂理だが、病が肉体を蝕むことほど我慢のならないことはない。それで列を離れている仲間が何人かいる。復帰の一日も早からんことを心から祈りたい。だがそんな一人だった鈴鹿石根兄が病に負けた。訃報に接したのは演奏旅行先の長崎であった。「え！」一瞬言葉を失った。仲間とハモルことを心から楽しみ、シャントゥールをこよなく愛し、情熱を注ぎ、後輩の我々を側面から力付け、支えてくれた人だった。八年前、転勤で佐賀に行く時はシャントゥールのことばかり心配していた。マネージャーになり立ての私の手を握って「宗ちゃん、シャントゥールを頼むぞ」の言葉はまだ鮮明に私の中で生きている。幸い昨年の40周年記念演奏会は一緒に歌えた。そんな彼のために今宵「Miserere」（主よ、あわれみ給え）を歌うとは…彼の魂の安らかならんことを…。
　ご来場の皆様、祝賀のハガキをお寄せ下さった皆様、賛助出演下さった“けやき”の皆様、伴奏の先生方、そしてご協力下さった関係者の皆様有難うございました。喜びと悲しみの交差した演奏会となりましたが、同朋の悲しみを乗り越え、そして会長を目標にさらに私どもは前進することをお誓いいたします。どうぞ今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。

マネージャー 佐藤 宗一
TEL (092)531-1315(事務局)